

大人が絵本を 第71回 いのちを支える



司書・読書アドバイザー 安藤 宣子*

小児歯科医師 濱野 良彦**

* 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)
** 医療法人元気が湧く 理事ファウンダー

ありがとう。医療従事者のみなさま

世界中の人が新型コロナウイルスの危機を乗り越えようと、政府や医療機関による注意事項を遵守し、不安と背中合わせながらも一人ひとりができることに気を付けて、新しい様式での生活を送っています。

諸外国におけるロックダウン、そして日本の緊急事態宣言下で、人々が敬意を表したのは医療従事者の皆様です。自らの健康を危険にさらしても、ウイルス感染者と、また感染者以外でも医療を必要とする人のために最前線で治療とケアに従事される方々へ、感謝のエールを送る取り組みが世界各地で続けられています。

その一方で、差別や偏見などの被害が発生するという悲しい事案がわが国でも起こり、日本看護倫理学会は、「新型コロナウイルスと闘う医療従事者に敬意を」とした声明を4月2日に発表しました¹⁾。

感染リスクの不安を抱えつつケアに当たる看護師の根本に宿っているのは、看護の礎を築いたナイチンゲールの精神で、その教えに突き動かされているプロ魂が伝わってきます。わが身を投げうって日夜、多くの人を救うため懸命に尽くす方々へ感謝してもしきれないところ、差別や誹謗中傷など言語道断です。

時を超えて語られる「真の強さと優しさ」

フローレンス・ナイチンゲールは、クリミア戦争で傷病兵の看護に尽力したことで、その名が歴史に刻まれました。従軍看護の後、ロンドンに戻ったナイチンゲールは、看護師を養成する看護学校を創設し、また今日に至るまで看護教育のテキストであり、看護師のバイブルとなっている『ノーツ・オン・ナーシング』(看護覚え書)²⁾を完成させるのです。そ

こには、時代が移り変わり、医療や看護が発展的変容を遂げようとも色あせることのない看護の本質が記されています。

時代も国境も超えた看護師の道しるべとするナイチンゲールが生まれたのは、1820年5月12日です。その日にちなみ、国際看護師協会は5月12日を「国際看護師の日」に、日本国内では1990年に「看護の日」と定め、「看護の心、助け合いの心を老若男女問わず国民一人ひとりが分かち合う心を育むきっかけとなるようにと願うもの」として、毎年、全国各地で看護にちなんだ様々なイベントが開催されています³⁾。

世界が新型コロナウイルスと闘う今年2020年は、奇しくもナイチンゲール生誕200周年に当たり、国内外で記念イベントが企画されていたのですが、遡ること一年前には予測もしなかったコロナ禍によって延期となりました。看護の中に統計学を持ち込んだ検査を徹底し、病床の衛生環境の大改革を行って、近代看護のあり方を確立したナイチンゲールは、このコロナ禍をどう見ているのでしょうか。

『フローレンス・ナイチンゲール』

デミ 作
さくまゆみこ 訳
(光村教育図書)



どんなに辛いことがあっても挫けないで、ただ傷病者の回復のため献身的に力を尽くしたナイチンゲールの強い心と行動力の裏には、真のやさしさがあることを幼い年齢の子どもたちにも伝えることができます。それが、絵本『フローレンス・ナイチンゲール』です。

一般に広く認知されている「白衣の天使」という側面の傍らで、「病床での戦士」との呼び名も持ち合わせているナイチンゲールです。200年近い時を超えた

手にするときは！

おしごとをみつめて

企画 濱野 良彦

構成 木須 信生 ※※※

※※※ 絵本と図鑑の親子ライブラリー ビブリオキッズ(福岡市)

2020年の看護師さんもまた、「病床での戦士」となって闘ってくれているのです。



病床の戦士たちへ、感謝の思いを届けよう

コロナ禍の中で私たちは医療崩壊の危機と、医療体制を維持していくことの大切さを改めて感じるようになりました。自粛要請によって、働く人々の多くが感染拡大を防止するための勤務体制に切り替わる中、残業とオーバーワークに陥ったのは医師と看護師です。医療に従事する使命を全うして闘い続ける戦士たちに、私たちがあげるべき声とは、差別心ではなく感謝の気持ち、「ありがとう」以外にありません。

今、大人の私たちが為すべきことは、自己を犠牲にしても懸命に職務を果たす医療従事者へ敬意を表すことと、その姿勢を子どもたちに見せること、そして、子どもたちが医療現場で働く方に対して間違った認識をすることなく、感謝の気持ちを持つよう後押しをすることです。



人気者がご案内！ 病院へ行こう

小さな子どもたちが大好きな海外絵本シリーズに、『おさるのジョージ』があります。日本語版のタイトルに“ジョージ”の名前が付いたのは1998年のことで、ジョージといえば「おさる」と連想されるほど、人気の熱は令和になっても変わることはありません。

ジョージは、世界的に名高いアメリカの絵本作家レイ夫妻によって、70年以上前の1941年に刊行された『Curious George』が原作です。1954年、『ひとまねこざる』の邦名で戦後の日本に上陸しました。夫のハンス・レイ氏の死後、作品を原案にしてヴァイパー・インタラクティブが、新たな画家の手で『おさるのジョージ』を制作することになり、ジョージの新しい

冒険を現代に続く子どもたちのもに届けられているのです⁴⁾。

レイ夫妻自身による原作は7作品のみという貴重な『ひとまねこざる』シリーズ最後の作品となった第7作では、『ひとまねこざる びょういんへいく』こととなります。ポストン子ども病院の協力によって作られた作品とあって、創作絵本にして注射、レントゲン、手術、点滴など医療行為の描写が至極現実的なのです。

『ひとまねこざる
びょういんへいく』
マーガレット・レイ 文
H.A.レイ 絵
光吉夏弥 訳(岩波書店)



病院に着いてから検査をする間も、病室に行くまでも、そして、術前から術後、退院まで、看護師または医師がジョージを見守り向き合っ、決して一人きりになることはありません。人気者ジョージのこの作品は、入院を控えた小さな子どもたちへのプレパレーションにもなりますし、さらには治療し、病気の子もたちを支えてくれる医師と看護師の姿が印象的で、その仕事の尊さを知るテキストともなるのです。



病院にお泊りしたら、見えるもの

ジョージのような「笑い」を差し引いて、プレパレーション要素一本で子どもたちと向き合う病院の絵本もご紹介しましょう。その題名も『びょういんにおとまり』、そう「入院」のお話です。

扁桃腺を治すために入院することになった男の子が病院へ着くと、看護師さんが体温を測ってくれ、お医者さんが心臓の音を聴いて血を採り、細かに検査する姿が描かれています。翌日の検査でも常に看護師が寄り添ってくれますし、「写真を撮るだけだから心配しないでね」など不安にならないよう声をか



けてくれるのです。また、夜中に熱を出して泣いているお友だちがいたら、その傍らでずっとケアに当たり、主人公が手術の後に目を覚ましたときには隣にいてくれる看護師の存在は、読んでいる子どももホッとさせられることでしょう。医療者の働きがぶさに描かれていますので、入院する子どもたちにとっては、「看護師さんがいつも側にいてくれる」と安心感をもつことができます。

『びょういんにおとまり』
アンナ・バラージュ作
ユディット・ダーノシュ絵
うちだひろこ訳(風濤社)



検査や入院準備に向けてだけでなく、一冊の絵本として読む子どもたちにとっても、医師や看護師とは、いつでもどんなときでも患者さんに目を向け、手を差し伸べてくれる心強い味方であることが分かります。ここに医療従事者の頼もしさと安心の元があるのです。

小児精神科医の筋書にハマる子どもたち

子どもたちの安心の元が詰められている『びょういんにおとまり』は、入院する子どものストレス緩和に取り組んできたハンガリーの小児精神科医が、入院を必要とする子どもたちのために書いた作品です⁵⁾。治療や検査の様子が丁寧に描かれていますし、特徴的なのは、「看護師さんはあなたにどんなことをしましたか」と常時、読み手に問いかけてくるのです。自分の心を整えたり理解を深めたり、あるいは体験を振り返って気持ちを見つめる仕掛けが施されています。

本書は、小学校低学年の女兒が自ら選書して読む傾向にあります。同じ子が日を変えて、何度も繰り返し読む姿が見られますし、誰にすすめられるでもなく、新しく小学校にあがった女の子の手に取られているのです。女の子のなりたい職業平成時代のトップ5には常に「看護師」が位置していて、1993年からは「医師」もトップ10入りしています⁶⁾。職業と

しての興味と、身体・病気への関心という両側面が、女子の注目度を上げていると思われます。同時にやはり、読者に問いかけてくるスタイルが医療者と対話をしているような感覚に陥り、引き込まれるのではないのでしょうか。

本当の勇気を問う、本当にあったお話

医療の最前線を知る核心の絵本に迫りましょう。東日本大震災の発生から津波と火災の渦中で、生死と隣り合わせの状況においても、人々のいのちを守るために懸命に職務を全うした2人の医師の『ふたつの勇気』(学研教育出版)を描いたドキュメンタリー絵本です。物語的には、現実体験をある程度重ねている小学生くらいの少し大きな子どもたちが対象となります。

医療従事者が人々の生死の境目に直面したときに果たした役割は、医療の実が分からなくとも、その力強い勇気が伝わってくるのです。それは、お話を読む子どもたちに備わっている魂に響くからなのです。判断を間違えたら、人々のいのちも自らのいのちも危ういような自然災害の真ただ中で力を尽くす医療者は、戦隊ヒーローよりもなお英雄として子どもたちの目に映ることでしょう。

それはまた、このコロナ禍で奮闘する医療従事者の勇気ある姿と、いのちを支える仕事の理解につなげられるのです。子どもたちだけではなく、心無い言葉を発する大人にも広く伝えたい作品です。

チャイルド・ライフ・スペシャリストのこと

医療従事者とは、医師と看護師のイメージが強いですが、理学療法士や管理栄養士、医療クラーク、それから歯科医師に、歯科衛生士等々、もっとたくさんの専門職の方々がいのちを支える仕事に就いています。小児医療現場では、子どもや家族をサポートする要となる専門職「チャイルド・ライフ・スペシャリスト(CLS)」がいます。日本国内のCLS第1号である藤

井あけみ氏が書いた『病院の子どもたち～チャイルド・ライフ・スペシャリストのしごと』(「たくさんのふしぎ」2019年2月号)では、日本での子どもたちの事例を通してその仕事について教えてください。



『病院の子どもたち～チャイルド・ライフ・スペシャリスト』
藤井あけみ 文 小平彩見 絵
(福音館書店)

子どものトラウマ体験の減少や、入院期間の短縮、鎮静剤の使用量の抑制という効果も実証されていて、小児医療に欠かせない存在と位置付けられているCLSは、1920年代に北米で発展した専門職ですが、日本の病院で導入されたのは1999年のことです⁷⁾。

死を迎えるおばあさんの日々を記録した写真絵本『さよなら エルマおばあさん』(小学館)の作者で写真家の大塚敦子氏は、生に向かっていこうとする5歳の女兒の懸命な姿もルポしています。アメリカの小児病院でのドキュメント『元気になってね フェンディ～子ども病院のチャイルド・ライフ・スペシャリスト』(小学館)が刊行されたのは2007年でした。その頃の日本国内で働くCLSは13名だったといえます。

それから12年後に日本のCLSを描いた藤井氏の絵本では、全国33施設で計45名が活躍していると記されています⁸⁾。アメリカの小児科学会では、入院している子ども15人に対して1人のCLSを配置することが望ましいと提言されているのですが、日本でもその役割がもっと認知され、配置されることを期待します⁹⁾。それが藤井氏の述べる「病気の子どもが幸せに生きられる世界こそ、すべての子どもにとって居心地の良い世界」の実現に近づくとおもうのです⁸⁾。



ナイチンゲールの教えをすべての人に

新型コロナウイルス感染症で死亡した看護師は世界全体で600人を超え、23万人以上の医療従事者がウイルスに感染したと発表されています¹⁰⁾。任務への忠実のために亡くなった方へ、ご冥福をお祈りし

ますとともに、今なお医療現場で闘い続ける方々に対し、これまで以上に敬い感謝の意を表します。

歯科医療に従事される皆様方への思いも同じです。ニューヨークタイムズがコロナウイルス感染リスクの高い職業を、医師・看護師の次に、歯科医師・歯科衛生士と発表しても予防策を立てながらの診療継続には頭が下がります。

「子を失う親のような気持ちで、患者に接することのできない、そのような共感性のない人がいるとしたら、今すぐこの場から去りなさい」。ナイチンゲールの遺した言葉は、感染の恐れをもっても、ウイルス感染者の治療や看護にあたる医療従事者の心を代弁しているかのようです。そして、老若男女問わない世界の人一人ひとりに問いかけるべき言葉でもあるのです。

より一層、気持ちを引き締め、予防に徹する行動をとることで、医療従事者へエールを送り続けます。



文献

- 1) 日本看護倫理学会：新型コロナウイルスと闘う医療従事者に敬意を、日本看護倫理学会HP <http://jneanet> 2020.4.2
- 2) Florence Nightingale: Notes on Nursing: What It Is, and What It Is Not, HARRISON, 59, PALL MALL, LONDON, 79p, 1859.
- 3) 公益社団法人 日本看護協会：看護の日、日本看護協会HP <https://www.nurse.or.jp>
- 4) NBCユニバーサル・エンターテイメント：おさるのジョージひろば, NBC Universal Entertainment Japan HP <https://osarunogeorge.jp>
- 5) アンナ・バラージュ作, ユディット・ダーノシュ絵, うちだひろこ翻訳：びょういんにおとまり, 風濤社, 東京, 2009.
- 6) 第一生命保険株式会社：“平成最後”の「大人になつたらなりたいもの」特別企画!, 第一生命News Release <https://www.dai-ichi-life.co.jp> 2019/03/08
- 7) チャイルド・ライフ・スペシャリスト協会：ようこそチャイルド・ライフ・スペシャリスト協会ホームページへ HP <http://childlifepspecialist.jp/>
- 8) 藤井あけみ：病院の子どもたち～チャイルド・ライフ・スペシャリストのしごと(「たくさんのふしぎ」2019年2月号), 福音館書店, 東京, 2019.
- 9) 原田香奈：病気の子どもと家族を支える専門職 いくつか国内で養成を, 朝日新聞デジタルHP <https://www.asahi.com> 2017.11.26
- 10) 共同通信：看護師600人以上死亡 医療中従事者感染23万人に, 産経新聞HP <https://www.sankei.com> 2020.6.4